

伊是名集落の祭祀を通してみる集落と民家の空間構成

- 沖縄伊是名集落における空間の探究 その2 -

日大生産工 (院) ○福田 奎也
日大生産工 篠崎 健一

1. 背景と目的

本稿は、集落の祭祀を通して、民家や集落の使われ方を調査し、把握することを目的とする。

沖縄伊是名集落は年中祭祀が行われ、祭祀は常に人々の生活と密接に結びついている。祭祀が行われる場所は、民家や拝所など集落の様々な場所である。人びとが作り出す祭祀の空間が、民家や集落の空間構成と何らかの関係があるのではないかと考える。

2. 旧暦六月豊年祭

伊是名集落に伝わる、豊年を祈願し、豊年を感謝する、旧暦六月豊年祭（以下「豊年祭」と記す）を調査対象とする。豊年祭は他の祭祀と比べ、東西に分かれた集落の人びとが総出で参加して、綱を引くウンナー（図1）がある。また、集落内の民家や拝所を練り歩き、歌い踊るムラガーイ（図2）がある。



図 1 ウンナー

図 2 ムラガーイ

3. 研究方法

調査は、2017年8月に行い、豊年祭の準備から、豊年祭当日、片付けに参加し、民家や拝所の使われ方や集落を練り歩くルートを記録した。この記録を元に、東西合わせて歌い踊った全29ヶ所¹⁾のうち、民家、拝所および道の実測調査済みの20ヶ所を図面化の対象とした。ムラガーイは、民家や拝所などで歌い踊る。人びとの動きは流動的であるため、歌い踊った全ての場所で、同じ場面のようなすが記録できるよう、人びとの踊りが最高潮に達する「ハルエイ、ソーエイサ」と歌う場面を図面化した²⁾（図3-1、図3-2、図3-3）。ムラガーイにおける民家や集落がどのように使われているかを整理する。

4. 調査結果

4. 1. ムラガーイのルート比較

2017年の豊年祭におけるムラガーイのルート及びリストを図4、表1に示す。ムラガーイは公民館から東西に分かれて出発する。慶事のあった家、拝所、商店、水稲農家などを練り歩き、歌い踊った。

東は、歌い踊る総数のうち、半数ほどが拝所をまわる。その後、銘苺家（琉球王国第二尚氏と関係の深い格式の高い家）で西とイチャエー（東と西が出逢うこと）し、公民館北側で再びイチャエーして公民館へと戻る。

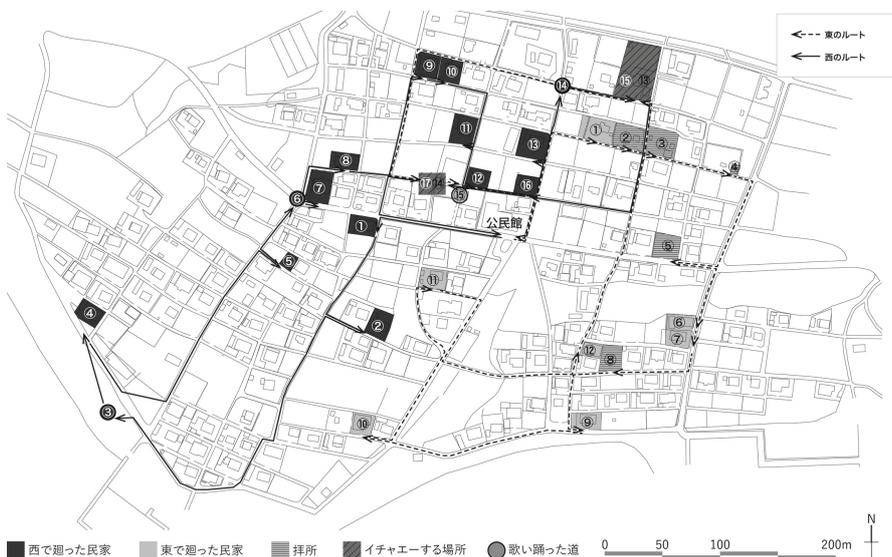


図 4 ムラガーイのルート図(2017)

表 1 ムラガーイのルートリスト(2017)

東				
順番	屋号または場所	現状	理由	図面化
1	シザヌマー	空き家	火の神	○
2	ヌンドゥルチ	拝所	火の神	○
3	ソーザヤー	拝所	火の神	○
4	伊是名火の神	拝所	火の神	○
5	シチンヤヤー	拝所	稲穂の始まりの家	○
6	ダイトウヤヤー	民家	水稲農家	×
7	サトシヤヤー	民家	慶事	×
8	ウェーザナシ	拝所	野国総管	○
9	ハマグラヤー	民家	慶事	×
10	サブローヤー	民家	区長家	×
11	ヤマガタヤー	民家	慶事	×
12	マリシヤヤー	商店	商店	×
13	メカル	空き家	銭湯家	○
14	両生古民家(ヤマガー)	商店	不明	○

西				
順番	屋号または場所	現状	理由	図面化
1	マナーカー	民家	水稲農家	○
2	セークヤヤー	民家	慶事	○
3	浜辺	浜辺	不明	×
4	さざ波	商店	慶事	×
5	兼元商店	商店	商店	×
6	高橋西	道	不明	○
7	イリシーヤヤー	民家	慶事	○
8	サークヤヤー	民家	慶事	○
9	チーカツクドラン	民宿	民宿	○
10	カケヒコヤヤー	民宿	民宿	○
11	キュースケヤヤー	民家	慶事	○
12	両生古民家(ヤマガー)	民家	慶事	○
13	ストー	民家	慶事	○
14	ワドゥン南東	道	不明	○
15	メカル	空き家	銭湯家	○
16	サンドゥガリヤヤー	民家	慶事	○

Spatial composition of villages and house through the ritual of Izena village
 - Exploring special schema through spatial experiences in Izena Village 2 -
 Keiya FUKUDA, Kenichi SHINOZAKI

西は、拝所を回らないが、途中、浜辺や道で歌い踊る。民家や商店で歌い踊るように、行われる。その後、東と同様に、銘苅家で東とイチャエーし、公民館北側で再びイチャエーして公民館へと戻る。

4. 2. 拝所(東のみ)

普段、戸が閉まっている拝所では、戸を開けてから歌と踊りが始まる。最初に三線の弾き手が拝所に背を向けながらリズムを奏でる。次に婦人会が踊りながら、三線の弾き手の前で円状になって集まる。最後に人びとが、婦人会を囲うように流れ込み、歌い踊る。

4. 3. 民家

東の歌い踊る流れは、拝所と同様であるが、西の三線の弾き手の立ち位置は全て同一ではなかった。西の民家と空き家を含めた11軒のうち、8軒は仏壇があるが、5軒で仏壇を背にして弾いていた。他の民家では、玄関や三番座を背にしていた。住人は、酒とご馳走を手に、歌い踊る一行にふるまう。そして住人は、二番座の前の縁側や濡れ縁で一行とともに歌い踊る。



住人 三線弾き手 調査隊 人びと

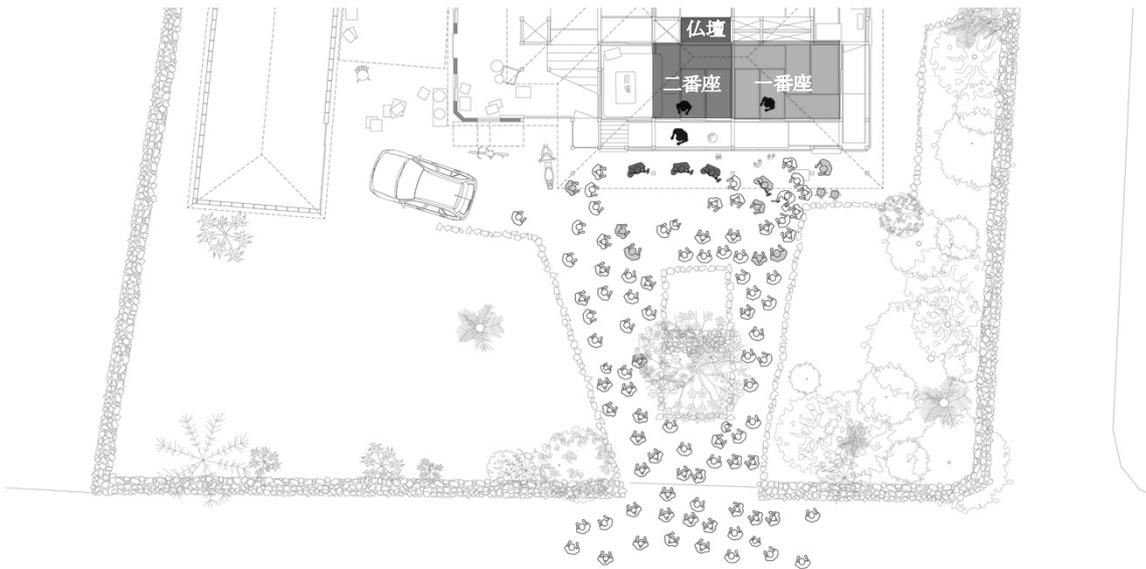


図 3-1 ムラガーイの民家のようす(西⑬民家:ストー)



図 3-2 ムラガーイの道のようす(西⑭道:ウドウン南東)

4. 4. 道(西のみ)

西は、浜辺や集落の道で、拝所や民家で歌い踊るように「ハルエイ、ソーエイサ」と円状になって歌い踊る。三線の弾き手は、歌い踊る一行の北側に立つ。

5. まとめ

2017年の豊年祭のムラガーイにおける民家と集落の使われ方を現地調査記録に基づき図面化し、把握した。

謝辞

本研究は、東京工業大学藤井研究室・日本大学生産工学部篠崎研究室共同主催の空間図式研究会の調査、研究の一環である。関係者に謝意を表す。

参考文献

[1]津波高志 他, 伊是名村史 下巻(島の民族と生活), 伊是名村, (1989)

注釈

- 1)メカルは東西が一緒になって歌い踊る。東西のルートでは1ヶ所ずつとしたが、全体ではまとめて1ヶ所とし、全29ヶ所とした。
- 2)ビデオや写真を用いて正確な図面の作成に留意したが、夜遅く行われ、暗く、死角となって図面に反映できないことがあった。

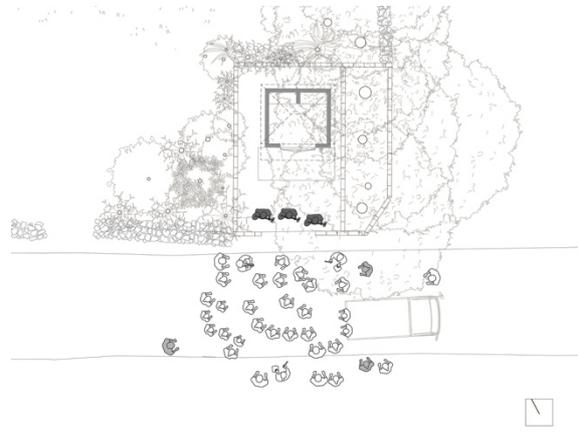


図 3-3 ムラガーイの拝所のようす(東④拝所:伊是名火の神)